

3 シンポジウム

(1) 参加各市紹介【東村山市】

(福生市 加藤市長)

渡部市長は歴代最年少で議長を経験されて、隣の馬場市長が来るまでは一番若い市長だったんですね。もう50歳になられたんですね。

それでは、よろしく申し上げます。

(東村山市 渡部市長)

東村山市長の渡部でございます。どうぞよろしくお願いたします。

東村山の紹介ということで、最初の方で、御配付させていただいている資料をお目通ししていただきたいと思っております。私どもの市は、いわゆる西武線沿線の市でございます。お隣の馬場市長の東久留米市さんが西武池袋線がメインのまちで、私どものまちも西武池袋線が通っていて、駅が1つ「秋津」という駅があることはあるのですが、メインは西武新宿線、西武新宿線というのはJRの新宿にはつながってなくて、歌舞伎町のあたりから出ているので、実はあれは西武歌舞伎町線ではないかと、私なんかは言っているんですが、そういう沿線にありまして、縁あっていつもこの5市のシンポジウムに参加させていただいております。

当市は昭和39年、東京オリンピックがあった年の4月に市制施行しまして、当時6万6千人の市でございましたけれども、現在は15万3千人を突破しています。もともとは当市は近郊の農村で、西武線沿線の方はだいたい台地なものですから、福生のように水が豊富ではなくて、基本的には畑作中心で来まして、小麦やさつまいもなどをかつてはメインで作っておりました。今でも200ヘクタールほど市内に農地が残ってまして、梨を中心とした果樹、それからポッドものの花卉などが比較的元気になっています。後、葉物野菜。

それから、だいたい住んでおられる方は都心に通勤される勤労者世帯、サラリーマンの方がほとんどだろうと思っております。当市は市内に大きな事業所や工場等がありません。あるのは国の施設、あるいは東京都の施設ということで、こちらのお二方の市に比べると、非常に財政的に厳しいまちでございます。

そんなまちでございますが、いくつか自慢できる点では、梨とかブドウとかキウイだとか果物が地場で美味しいものが採れます。それから、かつて小麦栽培が非常に盛んだったまちで、お隣の東久留米市さんもそうなのですが、うどん店が数多くございまして、東久留米さんと武蔵野うどんのメッカを競い合

うという仲で頑張っています。素朴な味わいですが、ぜひ一度、梨とかうどんを召し上がりに来ていただければと思っております。

それから、当市の自慢のもう一つが、多摩地域では唯一、ちょっとの間までは東京で唯一だったのですが、国宝の建造物があります。実は迎賓館が国宝に指定された関係で、今は都内で2ヶ所あるということなのですが、正福寺千体地藏堂という建物が国宝です。言い伝えでは、北条時宗が建立したと言われている鎌倉時代の建物という伝説であったのですが、昭和3年に解体修復工事をした際に出てきた記録を見ると、どうも室町期に出来た建物のように、様式としてはいわゆる唐様禅宗様式という、鎌倉にある円覚寺の建物とほぼ同じでございます。鎌倉の円覚寺も実は出来たのが鎌倉時代ではなく、室町時代だと言うのがはっきりしてしまっていて、古さで言うと当市の千体地藏堂の方が鎌倉の円覚寺より古いと言われていています。

そのほか、先史時代、あるいは縄文時代の遺跡・遺物なども数多く出土しておりまして、そういう意味では食べ物以外にも歴史が自慢かなあと思います。

なかなか調布市さんみたいによくマスコミに乗れてないところもあるのですが、当市もよく言われるように、「志村けん」というお笑いスターの出身地ということで、それからもう一人「原田泰造」という人も当市の出身で、新旧お笑い2大スターの出身地。住んでる人間は至って真面目な人ばかりで、別にお笑い系の人が多く住んでいる訳ではありません。そんなこともある東村山でございます。

今、東村山市もちょうど大きく街が様変わりをする、やっぱり西武新宿線も東村山市内には駅が9つあるんですが、東村山駅を中心に連続立体交差事業が東京都で採択されまして、これからかなりの期間、15年とか20年とか長い時間がかかるとは思いますが、街を分断していた西武新宿線が高架化されてより利便性が高く、また、災害時でも緊急車両の行き来が鉄道で寸断されて出来ないというような状況にならない、より安全なまちに向けて、今まちづくりを進めているところでございます。

それでは、おめくりいただきまして、当市の震災対応について、簡単に触れさせていただきたいと思っております。3月11日午後2時46分ということですが、当市が揺れた時刻は、だいたい47分、48分位だったと思っております。ちょうど、どこの市もそうだったと思うのですが、うちも市議会の予算特別委員会をやっておりまして、23年度の予算審議を喧々譁々やっている最中に地震になりまして、市役所の6階にあります委員会室、かなり長時間揺れたということでもあります。当市の市役所は昭和40年代の後半に建てられた、いわゆる旧耐震のまま耐震補強されていないので、「だいじょうぶかな」、そんな感じでした。いつも私をやり込める厳しい女性議員がキャーキャーいう姿を見て、この人こ

ういう面もあるのかと思ひまして、今のちょっと問題発言かもしれませんが、そんなことも垣間見ました。

揺れがちょっと収まった時に、防災課の職員が中心となって、庁内にいた職員・市民の方を、一回外に避難誘導するというような状況でした。しばらく経って、約40分後位にもう一度庁舎に戻れるような状況になったので、早速災害対策本部を立ち上げて、先ほど加藤市長が御説明されたような対応を、当市も取らせていただいたところであります。当市も被災状況はここに書いてありますが、人的な被害は幸いなことにありませんでした。やはり問題はその後の対応、一番問題になったのが計画停電の対応です。計画停電については、当初大変恐縮ですが、東京電力さんから出てきた情報もかなり錯綜していて、市民の方東京電力さんに電話してもなかなかつながらないので、結局市役所にお問合せをいただくということで、1日千件を超える状況がありましたので、当市も13日には早速コールセンターを立ち上げようということで、各部の職員持ち回りで、朝6時から夜11時まで開設して、市民の皆様のお問い合わせに対応しました。

今回つくづく思ったのですが、福生市さんの場合はどうだったかわかりませんが、「明日は何時から計画停電の予定です」というのを防災無線でお知らせをすると、必ず何百件とまた電話の問い合わせが来て、「今何を言ったんだかわからなかったが、一体何ですか」というお問合せが数多くありました。当市は防災無線を平成元年に設置したままのものなので、それ以降建物も高く建ったりしていますから、音がハウリングして聞こえづらい。それから、アナログ方式で音が真っ直ぐ届いていないこともあって、計画で順次、防災無線のデジタル化を進めて行く予定だったのですが、今回の震災を受けてこれを前倒しで進めて行こうということで、今年度から調査を始めています。

それから災害時の司令塔となるべき市役所が耐震構造でないということでは、なかなか市民の命を守ることもままならないということで、これも今前倒しで市役所の建物自体の耐震化に向けての調査を始めたところでございます。

被災地への復興支援等については、先ほど加藤市長が多摩地区の10%の義援金を集められたと御説明がりましたが、その額と比べると私どもはお恥ずかしい額なので敢えて申し上げますが、私どもは市役所行政市長部局と教育委員会部局とで、別々に募金をやっている関係もあって、金額がお恥ずかしい額なのかなあと思っております。トータルすると、もう少し行きますので、それなりに市民一人当たり200円のノルマは、当市も果たさせていただいてるのかなと考えています。

私も今年の8月になって、ようやく被災地を訪れる機会がございました。先ほど申し上げました通り、東村山市は国の施設が非常に多いのですが、その中

でも国立のハンセン病の療養所がある市でございまして、今回被災地で宮城県の登米市というところにやはりハンセン病の療養所があります。その関係でちょっとお邪魔をさせていただきました。内陸なので津波ではまったくやられていないのですが、隣が南三陸町、あの津波で壊滅的な被害を受けたところで、そこから千人程、隣町ということで11日の夜には来られて、その避難者の対応で大変な御苦勞をされたという状況を垣間見させていただいて、色々とお話をさせていただきました。これからの当市における災害対策に、非常に有益だったと考えております。後ほどお時間いただければ、そのことについてお話しさせていただきますと思います。

とりあえず、当市の状況については以上でございまして。ありがとうございました。

(福生市 加藤市長)

渡部市長、ありがとうございました。

防災行政無線の話が出ましたが、私どもデジタル化はもう果たしていますが、やはり問合せが必ずありまして、今は家の建てつけがいいのでしょうか、きちっと機密性が保たれているので、なかなか防災行政無線をお聞きにならない方が市民の中にいらっしゃるなと感じています。